

会議の概要

令和２年度 第２回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼

- 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
- 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
- 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和２年７月７日（火） １８：３０～２０：１５

場 所：改善センター 全体会：多目的ホール（２階）

分科会：幼稚園…多目的ホール、大玉中…健康相談室（１階）

玉井小…農事研修室、大山小…農事相談室（２階）

進行…事務局（指導主事 斎藤 一範）

１ 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 大山 明美）

これから第２回コミュニティ・スクール委員会（以下ＣＳ委員会と略記）を始めます。よろしくお願いします。

２ 教育長あいさつ

（大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- お晩でございます。今日は七夕と言うことでありますが、お集まりいただきましてありがとうございます。この天候で九州が大変なわけで被害がたくさん出ている。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げたい。
- 本年度も早いもので３ヶ月が過ぎた。学校の様子を見てみると、コロナはだいぶ落ち着いてきているように思われるが、今日も東京都では１０６人感染と、３日続けて感染者が３ケタを数えており、決して予断を許さない状況にあると思っている。そんな中、過日の第１回ＣＳ委員会で、特に「今年度このような状況の中で幼稚園・学校が抱えている課題は何か」などについて、校長・副園長先生に対して各ＣＳ委員さんから様々なアイデアをいただいた。

私が感銘を受けたのは、課題を共有しているということである。さらに、さっそく学校の消毒作業に行っていたり、除草作業をしていただいたりした。心よりお礼申し上げたい。今後のことについても、ぜひ話し合っていいただければと思う。

- 全国ＣＳ協議会という組織があつて、大玉村も発足した平成２３年から加入している。当時の会長が貝ノ瀬滋先生であったが、その後東京都三鷹市の教育長を辞め、全国ＣＳ協議会の会長職を退かれたわけだが、この度三鷹市教育長に復帰し二度目の会長に就任された。過日、総会を行い（今年度は新型コロナの影響のため書面で）、総会の報告と同時に貝ノ瀬先生の復帰の挨拶文をいただいた。

その中の一つを紹介したいと思う。



臨時休校中の期間も、地域の方々からは子どもたちを心配する声や「何かできることはないか」という声があがった地域も多かったのではないのでしょうか。これまでのCSで培った成果の一端として、「地域の学校」「地域の子どもたち」という意識が強く醸成されていることを改めて実感したところであります。

と書かれてあった。私も前回のCS委員会、そして、その後の皆さん方の思いや行動を拝見させていただき、正に貝ノ瀬会長と同じ気持ちである。

- 今日の協議題は2つに分かれており、最初が「おおたま・オートム・フェスタの趣旨を取り入れた行事等の内容について」である。おおたま・オートム・フェスタは、今年で4回目の予定だった。昨年度のアンケート結果によると、90%を超える人たちから「よかった」「また継続して欲しい」という反応があったが、今回こういう事態（新型コロナウイルス感染症）になってしまい、通常のおおたま・オートム・フェスタの実施は無理であるので、これから各校・園で運動会や学習発表会、文化祭などの機会に、「フェスタの趣旨を生かして」ということについてアイディアを出していただきたい。それを生かして、各校・園で具体的な立案をしていけるとよいと考える。CS委員会からの発案で誕生したおおたま・オートム・フェスタの伝統を、今後に繋ぐことが出来ると思うのでよろしくお願いしたい。

- 机上にチラシを置かせていただいた。それは、現在このような状況なので、国がコロナ対策と子どもたちの学びの保障をしていかなければならないということで、文科省が創ったシステムである。学校応援サポーター人材バンク開設ということで、相当な金額を使っている。中身は3種類ある。

Iの1の「学習保障に必要な人的体制の強化（310億円）」で教員の加配3,100人とあるが、福島県は残っている教員の数が少ないので難しいと思う。期待したいのは、2の「学習指導員の追加配当」と「スクール・サポート・スタッフの追加配当」である。学習指導員については、教員免許を持っていなくても大丈夫である。この制度は、希望する人が文科省のホームページに登録し、その中で希望する自治体（市町村）を申請するシステムになっている。過日県本部を通して調べたところ、福島県では20人程いたが、残念ながら大玉を希望する人はいなかった。待っていても仕方ないので、今人探しをしている。去年まで来てくれていた福大の学生達の中にやってもいいという反応の子もいるようだ。

このチラシを見ていただき、声をかけてもいいなと思う人がいたら、担当の田辺社会教育係長までお知らせいただきたい。お知らせいただいた後、担当が文科省に申請手続きをするのでよろしくお願いしたい。

- スクール・サポート・スタッフ（SSS）制度は、涙が出るほどありがたい制度とのことである。県は、学校の規模の大きい方から順に配当しているので、大玉村まで回ってこない。そういうことがあったので、今年は村予算で小・中学校にSSSを配置した。各校長からも、いい制度だとの話をいただいているので、プラスもう一人ずつ配置したい。2人になれば、かなりの力（1+1=2以上）になると思うので、適任者の心当たりがある方はぜひお知らせいただきたい。詳しいことは田辺係長へ。
- 国は、今コロナ対策で地方創生臨時交付金という名目で臨時措置をしており、第一次交付、第二次交付があって、大玉村には合わせて約3億のお金が来ている。その中に教育関係の予算もあって、GIGAスクール構想により、児童・生徒一人1台のPCを整備することになった。（今年度中に完了。現在計画中である。）

また、学校の清掃はかなり大変であるので、特にトイレの清掃や消毒作業をしてもらう業者を依頼することにした。（幼稚園、小・中学校。週に2～3回）

- II「学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援経費」で、1校あたり100万～300万程度の予算配当（大玉村の小・中学校は、300人以下なので100万）がある。

使い道を現在検討中だが、夏休みの暑い時期（7、8月）でも給食があるので、給食配膳室の空

調設備、網戸の設置、社会体育において利用できる非接触型の体温計の購入等を計画している。子どもたちや大人の学びの環境の整備に努めていくようにしたい。

今日は限られた時間の会議ではありますが、ご協議をよろしくお願いします。

3 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長あいさつ

(おおたま学園CS委員会会長 伊藤 和弥)

改めましてお晩でございます。本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。最近には本当に蒸し暑い天候であり、子どもたちも先生方も私たちも体力を奪われている。コロナにも気をつけなければならないが、体調管理にも十分に気をつけながら様々な活動に取り組んでいただきたい。

先日、消毒作業のために役員数名で中学校を訪問し、学校の現状を確認させていただいた。先生方は、教材研究(＋準備)や授業、部活動、そして消毒をしなくてはならない等、大変な手間をかけながら取り組んでいるという現状を知った。私たちCS委員も、(消毒だけでなく)何かしら子どものため、先生方のためにできることはないか考えているところである。また、除草作業に取り組んでいる方々もいらっしゃる。このような輪を広げていき、「みんなで学校を助ける」という気運を盛り上げていけるような活動ができればいいと思う。今後ご協力をお願いしたい。

今日は、通常より15分間程短い時間での開催ではあるが、内容の濃い話し合いにできるようよろしくお願いします。

4 諸連絡 本日の日程・内容について

(指導主事 斎藤 一範)

(1) 各校・園毎に会場を分散して行う。(グループ協議)

① おおたま・オータム・フェスタの趣旨を取り入れた行事等の内容について

- ・CS委員のアイデアをいろいろ出していただき、それを基に各校・園で検討し深めていく。
- ・CS委員の参画という部分で、準備についても考えられると思うので、時間があれば検討願いたい。

② 各園・各校ごとの意見交流(課題、10月のCS委員会で熟議したい内容等について)

- ・前回のCS委員会で学校の課題を共有し、CS委員でさっそく行動に移していただいた。大玉村の課題として、CS委員会の考えをいかに保護者と共有できるかが挙げられるので、その点についても話題にしていきたい。
- ・10月のCS委員会で熟議したい内容等あれば出していただきたい。

(2) 共有(全体会)

- ・各グループから4分程度で報告していただき、各校・園の取り組みや今後の方向性についてCS委員全員で共有するようにする。

5 協議

(座長 CS委員会会長 伊藤 和弥)

(1) おおたま・オータム・フェスタの趣旨を取り入れた行事等の内容について(各校・園に分かれて5グループで)

① 各幼稚園・学校の方向性の説明(各校・園から)

② 小グループによる熟議(30分)

(2) 各園・各校ごとの意見交流(各校・園に分かれて5グループで)

- ① 各園・学校の状況共有(学校再開後の状況や学校現場の課題等について)
- ② 課題解決のためにできること等の



検討（園・学校の状況を踏まえ、今後のCS委員会の活動の方向性を検討）

- ③ 今後のCS委員会で熟議したい内容の確認

～ 移動・休憩 ～



（３）全体で共有（各校・園４分程度 会場：１階 多目的ホール）

（座 長）それでは協議を進めさせていただく。（１）（２）について各幼・小・中に分かれて話し合いができたと思う。そこで確認・検討したことを共有していきたい。大玉中学校からお願いしたい。

① 大玉中学校

（CS委員 佐藤寿雅子）

ア おおたま・オータム・フェスタの趣旨を取り入れた行事等の内容について

- 中学校での一番大きな行事は文化祭だが、体育館という建物の中であるべく密を避けるために、今回は時間と内容の削減を考えているところなので、そこに新たに地域の方々との交流を取り入れるのは実際問題として難しい。できれば、普段の授業（総合学習）や委員会活動等で地域の方々との交流を持つようにするとよいという話になった。

具体的には、例えば、２年生は、今年度総合学習で職場体験をすることはできないので、いろいろな職種の方々をお呼びして、どんな人材が必要なのかを実感するために模擬面接をしていただく等の工夫をしたり、また、生徒会活動でペットボトルキャップやベルマーク、アルミ缶等を集めているが、そういう所でも地域の方々と交流を図りながら、さらに拡大できるのではないかな等の工夫も考えられる。CS委員さんから、学校がどんな人材を必要としているかな等の情報が欲しいとの意見があったので、学校でもいろんなことを提案し、お願いしていければと考えている。それが趣旨を生かした行事に置き換えられるという話し合いになった。

イ 各園・各校ごとの意見交流（課題）について

- 前回のCS委員会の後に、CS会長さんと副会長さんが校内の消毒をしてくださり、子どもたちからも「本当にありがたい。」「こんなことをしてくれたんだ。」等の反響があった。その後も、校庭の除草でお世話になったりとか、今後は中庭の剪定をお願いしているところである。このように、学校の日常が地域の方々に支えられていることことを、子どもたちに知らせたいと思っている。（今後もよろしく願いたい。）
- 課題として、１学期から延期した修学旅行や学習旅行を９月に実施する予定ではあるが、ギリギリになって実施できなくなってしまった時にどうするかということである。中学校としては代替案も作っているのだが…。
- 今年度は、文化祭のメインを合唱コンクールとして計画を立てている。歌唱は飛沫が一番飛びやすいので、フェイスシールドを購入していただき、練習時から使用して歌う等工夫して実施し、子どもたちの思い出に残る文化祭にしていきたいと思っている。
- 子どもたちが「通常通り登校できる」「部活動ができる」ということで、疲れながらも、日常を喜びながら生活しているのが現状である。

ウ 今後のCS委員会で熟議したい内容について

- ぜひ、学校の様子やCS委員会の活動の様子を地域の方々に知ってもらう方法を考えていくべきではないか。

中学校ではホームページを頻繁に更新しているが、発信しても受信してもらえない実態があり、何らかの工夫が必要であると考えている。学校だよりの配付という方法は、世の中のペーパーレスの流れとは逆行してしまうので、私たちのこの活動を周知できるような新たな手立てについて、今後熟議できればいいという話し合いになった。



② 玉井小学校

(校長 小林 雄)

ア おおたま・オータム・フェスタの趣旨を取り入れた行事等の内容について

- 運動会、学習発表会を2学期に移動する形をとり、当初は運動会と学習発表会をタイアップさせて、各々の概念を外したような取組にはどうかという考えはあったが、子どもたちの願いは「できるだけ運動会に近づけた行事をやりたい」であり、保護者や祖父母も「観たい」という思いが強くあって、学校としてもその思いに近い形でやっていきたいと考えた。
- そんな中でも、地域の方々を巻き込んでいきたいという思いもある。CS委員の方々には、「チャンスレースに地域の方々に出ていただくこと」「地域の方に運動会の裏方に入ってください」とも一つの方法ではないかというご意見をいただき参考になった。

イ 各園・各校ごとの意見交流（課題）について

- CS委員の方々数人に校地の除草をしていただいた。このことを外部に発信し、その後保護者やOB会等多くの方々に参加していただき除草をしていただいた。CSの取り組みが保護者にも広がり、心より感謝している。
- 消毒作業に関しては、当初教職員は遠慮していて自分たちで時間をかけて行っていた。学校支援コーディネーターが毎週火曜日に本校に来ている機会を生かして、“火曜日の放課後に学校支援ボランティアと教職員とで一緒に行い、その後協力できる保護者に入ってください”という方向性で考えているところである。
- CS委員会をはじめ、地域の方々、保護者の方々に学校のことをたくさん心配していただいている。そういうことを大切にしながら、子どもたちの教育に当たっていききたいと思う。

③ 大山小学校

(CS委員 館下 愛理)

ア おおたま・オータム・フェスタの趣旨を取り入れた行事等の内容について

- オータム・フェスタ、運動会、学習発表会等を同じ日にいっぺんに行う方法について話し合った。CS委員からは、トラックを入れて、そこにステージをつくって発表しつつ、運動会の種目も実施する方法もあるという意見もあった。学校では、今後話し合いを進めながら、決定していきたいということである。
- CS委員としては、運動会の準備で、PTAと協働で手伝えることがあるのではないかと意見が出た。
- 地域の方にはCS委員と一緒に参加できる種目をつくってもらえば、地域との交流になるのではないかと。
- 行事のネーミングは学校（校長）に考えてもらう。

イ 各園・各校ごとの意見交流（課題）について

- 今年からスクール・サポート・スタッフ（SSS）が一人配置になったので、清掃とか除草作業とかで助かっている。

- 教員数がぎりぎり、担任以外に講師の先生やT Tの先生が一人もいない状態である。そのため、プールに入る時や校外学習に出かける時などには、教務の先生や教頭先生等が自分の仕事をおいて、そちらに回らなくてはならない状況が続いている。
- 「学校・子ども応援サポーター人材バンク」などによって、小学校に講師として入ってくださる方を望んでいる。周りの人たちにそれを知ってもらえる機会をつくれるとよい。

④ 玉井幼稚園

(CS委員 佐藤 拓未)

ア おおたま・オータム・フェスタの趣旨を取り入れた行事等の内容について

- 「年長児は今年が幼稚園最後の運動会になるので、ぜひやらせてあげたい」という先生方や保護者の思いはあるが、新型コロナ感染症のことを考えると、今後どういうふうになっていくのか予測が難しい。先生方には、これまでの指導経験を生かしたり、工夫したりして、実施内容や方法について検討していただきたい。(子どもたちが楽しめるようなもの等考えて)
- 実際の種目についてだが、子どもが望むものは接触があるものが考えられるので、何がやれるのかを十分に吟味していくようにする。CS委員も検討作業に加わり、力になりたいと考えている。

イ 各園・各校ごとの意見交流(課題)について

- ハード的に限界があるので、あとは先生方の知恵とスキルで何とか上手くやってもらえないという話になった。オープンスペースにピクニックシートをはって、密を避ける工夫をしたり、区切りを作って部屋数を増やす工夫をしたりしており素晴らしいと感じている。
- 今後も、コロナを前提にしていろいろな活動をしていかなければならない。コロナをどう予防するかを念頭に置きながら幼稚園運営をしていく必要がある。具体的な方策を明らかにしていくことができるとよい。CS委員としても積極的にその検討に加わりたい。
- これからも幼稚園に任せきりにせず、何らかの形でお手伝いをしていきたい(声かけも含めて、保護者として、CS委員として)。幼稚園と地域の間に互いに思い合う心があって、それが広がっていく形になればよいと思う。

⑤ 大山幼稚園

(CS委員 斎藤 信一)

ア おおたま・オータム・フェスタの趣旨を取り入れた行事等の内容について

- 昨年までずんね会、スポーツ民謡会の皆様と屋内運動場でイベントをやっていた。今年はどうするかということだが、別の団体に協力してもらって新しいことをやるのではなく、運動会でスポーツ民謡会の方々と一緒にダンスを踊るとか、ずんね会の方々が作ってくれた大きなカボチャを使ってカボチャ引きのレースをするとか、今までの交流を崩さない交流をしたいという話になった。
- 遠足やいろいろな行事が出てくると思うが、これまで自粛の中で子どもたちが楽しみにしていた“プラネタリウム”、“カレーパーティ”等が一切中止になってしまった。コロナの状況を見ながらなのだが、秋口にある“いもほり”では子どもたちが食べ物を使ったりする交流もきちんとしていきたいということである。
- オータム・フェスタは運動会をベースにできればよいという話になった。

イ 各園・各校ごとの意見交流(課題)について

- 消毒作業が先生方の負担になっている。
今までは、先生同士で集まって子どもたちのことについて意見交換を盛んにしていた。年度末の学校評価の話し合いの折にも、それがとてもよく生かされている旨の話を聞いた。今後も続けていくことによって、子どもたちの目線で教えていけるのかなと思っていたのだが、そういう大切な時間があまりとれなくなっているということである。ぎりぎりの人数で、子どもたち一人一人のことをしっかり見てもらっている、引き続き頑張ってもらいたいのだが、先生方の時間に余裕を作れるようなくみをこれから拡充していただきたい。

(座 長) ありがとうございます。幼稚園、小・中学校において、子どもたちの年齢によっても考え方が変わってくるんだと感じた。

今までおおたま・オータム・フェスタにおいては、交流を目的としていて、地域の皆さんや他の学校・園の子どもたちと交流することによって、地域や人を知ってもらい、「大玉村はいい村だな」と感じてもらう活動だった。しかし、高齢者の方々がコロナに感染した場合に重症化しやすいという情報があるし、昨年度までのように実施することは本当に難しいと思う。

何とか感染予防しながら、3密を避けながら行事をやりたいと思う一方、1学期にはほとんど行事ができていなくて、2学期に行事が立て込んでしまった。時間的な余裕もない中で、学校の行事の中にオータム・フェスタの趣旨が生かされ、反映されるようなものをつくるのは難しいと思う。幼稚園や小学校低学年の子は難しいとは思っているのだが、上の学年になれば協力しながらできるのではないかなと思いながら聞いていた。

国からいろいろな予算が出ていて、設備等を拡充できると聞いている。可能かどうかは分からないが、運動会や学習発表会の様子をビデオや携帯で撮ったりして、各家庭に配信するのも一つの方法である。(難しいが…)

子どもたちはどんな行事になるのか期待していると思う。本日、新型コロナ感染症関係の注意点やそれぞれの思い等を共有することができたので、なるべく同じ方向性でいろんな行事を開催できればよい。今後もこのような情報を共有しながら、一貫した考え方で進めていければいいと思う。前向きに何とかやりたいという考え方は変わらないので、今後は各校・園の進捗状況を教育委員会を通して確めながら、どんな方向に進んでいるのかを確認し合い、CS委員で共有していきたいと感じた。

6 連絡事項

(教育部長 作田 純一、指導主事 斎藤 一範)

(1) マスク配布の件について

- 村から2枚ずつCS委員に配られるものであるので、会議の際にご活用いただきたい。水着素材のマスクなので洗って使っていただきたい。

(2) 第3回CS委員会の予定について

- 「9月4日(金)大玉中オープンスクール・学校運営協議会」13:55~18:05(予定)

(3) 令和2年度計画の変更等について

- 第5回CS委員会「10月29日(木)大山小オープンスクール・学校運営協議会」13:55~18:05
- 全国コミュニティ・スクール研究大会 令和3年2月5日(金) 栃木県栃木市

7 閉会のことば

(おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都)

皆様お疲れ様でした。以上をもちまして第2回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会を終わりたいと思います。ありがとうございました。